

北辰

TOKYO



岐阜県立多治見北高等学校同窓会
東京支部会報 第16号
2002年9月29日

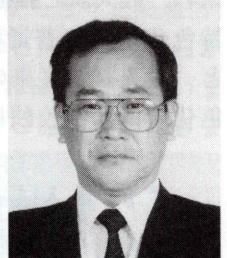
同窓会活動に積極的な協力を!!

多治見北高等学校同窓会・東京支部
会長 愛知紘治 (1回生)

今年の夏も地球温暖化のためか猛暑となり、テレビニュースに多治見市が連日最高気温の街として登場しました。東京支部会員の皆様にはその後お変わりなく、お元気にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。東京支部役員の方々を始め、会員の皆様には同窓会活動に一方ならぬご協力を賜り篤く御礼申し上げます。わが国の経済はバブル崩壊以後低空飛行が続き、一向に明るい兆しが見られませんが、今年7月発行の本部同窓会会報「北辰第4号」では母校校舎改築のニュースが一面で“夢ふくらむ新校舎”と報じられ、同窓会会員の間には明るい話題となりました。多北校舎改築プラン懇談会が発足し、具体化に向けて動き出したということでもまだまだ紆余曲折はあると思いますが、母校の発展に夢を与える明るいニュースでありました。われわれ東京支部同窓会は役員、会員各位のボランティア精神により着実な発展を致しており、日頃会員各位の同窓会に寄せる熱意に心から感謝申し上げます。

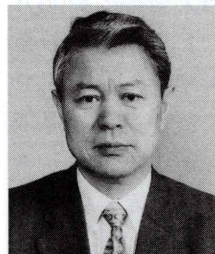
支部会員も毎年母校を卒業し東京都を始め、東京周辺の大学に入学あるいは就職する会員が加わり、現在約1400名の会員を有するに至りました。年々若い会員が増えており、これら若い会員の同窓会活動への参加意識の高揚は東京支部の従来からの課題であります。この課題に対し、東京支部としては母校との連繫強化・・母校の総合教育カリキュラムへ講師として支部会員を派遣、また地域活動の推進・・東京、神奈川、埼玉、千葉など地域ごとの活動による同窓生ネットワーク作り等、支部役員のお骨折りにより一歩一歩進んでおります。総合教育カリキュラムには昨年は東京支部から1回生鈴木満氏と愛知、今年は東京支部8回生加納宣康氏、関西支部7回生永井一彰氏が、母校在校生にそれぞれの専門分野の話を中心に講演させていただきました。在校生の反応も良いようです。わが北高も来年創立45周年を迎え、北高1回生は今年還暦を迎えま

す。同窓生の高齢化も進む中で、経済界、大学、文学・芸術等の各分野で活躍している人も益々多くなっております。これら第一線で活躍している多くの同窓生は母校に熱い思いを寄せており、年間講師2人という総合教育カリキュラムの枠に講師の人選に苦勞する程です。同窓会を通して先輩、後輩の同窓生が交流することは素晴らしいことです。今年も平成14年度総会、フォーラム、懇親会を11月9日(土)、昨年同様新宿モノリス29にて開催致します。今年の幹事役は3回生、13回生、23回生、33回生です。詳細は別途ご案内させていただきますが、是非参加して下さい。今まで同窓会にあまり関心がなかった人も、学生、今年就職した会員など若い会員の参加も大歓迎です。一人でも多くの会員の参加を期待しております。



教育改革の近況 …母校は

岐阜県立多治見北高等学校
校長 土肥勇賢



この春卒業しました同窓会員を含め、総数14000名余になりました。益々のご発展をお喜び申し上げます。さて、昨今の教育界の話題については、新聞紙上等を通じてお分かりのことと思いますが、国の改革や岐阜県の動きについて記し

てみます。

今年度から学校週五日制が完全実施となりました。土曜日の休みについては、10年程前に、月一回から順次始まっています。今回完全に実施された訳です。「ゆとりの中で生きる力」が主眼で、地域や家庭との連携、体験学習などの導入が盛り込まれています。また、新学習指導要領については、小中では移行しましたし、高校では学年進行で来年度から始まります。新しい教科、「情報」「総合的な学習の時間」に、インターシップや農園クラブが導入されます。その結果、指導内容の3割削減、最低基準などと相まって、学力の低下も話題になってきました。本校では、「学力の維持・向上を図るため、いかに授業時間を確保するか」を課題に、話し合いを持ち、スリム化を図りながら改善を試みています。先輩たちが築いた校訓「自主・自立・自学」の基、「文武両道」を崩さず、バランスを取りながら学校運営に当たっています。

さて、岐阜県版の改革は、一つに入試改革です。従来の一般入試と推薦入試（普通科はなし）に変わって、特色化選抜（普通科は定員の20%・隣接区の受験可）と一般入試（従来の学区）の二段階となりました。特色化では、学校独自問題を作成し実施しました。結果

的には、「多北に来るべき生徒が来てくれた」ということで大きな変化はなく、問題はありませんでした。

一方、県内高校の統合・改編をこの四月に打ち出しました。07年度までに、22県立高校を11校に、中高一貫校を1校新設です。本巣と岐陽、岐阜三田と岐阜藍川、各務原東と岐阜女子商業、大垣農と養老女子商、海津と海津北、中濃西と中濃、加茂と白川、益田と益田南、高山と斐太農林が統合されます。また近くでは、中津高校と恵那北、岩村と明智商が対象になっています。本校に関わっては、定時制が平成16年度をもって、募集を停止し、土岐北に新たに3部制の定時制高校が誕生します。本校が開校以来、全定共に歩んできましたが、全日単独校になります。

校舎改築については、同窓会本部に大変お世話になりました。「北辰」に詳細が載りましたので別の機会にと思いますが、多北に関わるいろんな人たちの校舎にける熱意が伝わり、意外と早い時期に、改築プランが軌道に乗ってくるものと期待しています。新体育館も4年目を迎えました。10月には、弓道場が完成する予定です。

母校と同窓会との結びつきを私なりに図ってきましたが、今後ご支援の程、よろしく願います。

「21世紀におけるわが母校！校舎改築に向けて」

多治見北高等学校同窓会

副会長尾関恵一

多治見北高同窓会東京支部の皆さんお変わりありませんか。皆様には、各界・各分野でご活躍の事と存じます。

同窓会本部も再建されてから4年がたとうとしていますが、役員の方々の協力のもとに組織企画委員会・財務委員会・広報委員会それぞれ頑張っています。

組織的な面では、各学年の役員名簿も調い、各学年単位の同窓会、ゴルフコンペなどが行なわれるようになり、各会員間の親睦が計られるようになりました。企画の面では、毎年北辰ゴルフ大会（今年は9月15日に3回生・13回生・23回生が担当で行ないました）と更に講演会・音楽会などの行事を行なう予定にしておりますが、今のところ行事内容は未定です。

財務の面では、収入の確立が緊急の課題であります。定期的な収入としては、毎年卒業生の入会金の約90万円（約300名×3000円）だけであり、1万4000名の会員を有する同窓会の収入源としてはあまりにも希弱であります。この点を解消するために広報委員会と連携して、活動協力金のお願いをしているところであります。これも第1回の募集には、多数の皆さんの応募もありました（621名189万円）が、第2回目となると、

わずか301名と激減してしまい、金額も89万円と減少してしまいました。

これでは、広報誌「北辰」を発行することも出来なくなってしまうこととなります。会員の皆様、同窓会活動にご理解をいただき、この活動協力費にご協力をお願いします。（提案＝各自が振込みをしているとついつい忘れることもあるので、同窓会の集まりがあった場合は、必ず役員の方が取りまとめて合計して送金する方式はどうか。ある学年では、実施しているところもあります）

広報の面では、今年も広報誌「北辰」四号を発行させていただきました。財務の確立が出来ていないので、広告欄を多くして収入増を計ろうとして、学年の役員の方には、この不況の時節からご無理をお願いしました。来年からは、再検討する必要があるものと思います。女性委員も参加してもらい、かなり充実した内容になりつつあります。同窓会員が、頑張っている情報を発信し続けたいと思っています。

母校の「総合的な学習」に対する講師派遣については、今年は、七回生永井一彰さんと八回生加納宣康さんのご両名をお願いし、全国的なレベルで活躍されている講師の話は、後輩達に多くの感動を与えました。この

活動も大切なものですので、ぜひ継続したいものです。

今年初め頃から、わが母校の校舎の改築の話が持ち上がり、「多北校舎改築プラン懇談会」が結成され、同窓会、PTA、学校評議員、生徒会、地域代表など20名で活動を行なっています。わが同窓会の全力を挙げて、これを取組むことを本部役員会で決定し、若尾賢治会長、加藤昭仁副会長と私が参加しています。「懇談会」での討論の中から、老朽化がすすんでいる校舎は、全面改築の必要があること、虎溪山という自然環境を活かした生徒が伸び伸びと学習できる校舎、21世紀を担う子供達の人材育成の場としての学園、そして地域に開かれた学問・文化の拠点としての学園などの基本構想が浮かび上がって来ました。この基本構想に基づいて1回生の浅井佳彦さん（浅井設計事務所）に、将来構想外観図や配置計画図などの図面を作成していただきました。

この「懇談会」に生徒代表も参加しているのですが、彼等は「生徒会では、広々とした豊かな自然を生かし、地域の中核校として地域のシンボルとなるような校舎にしたい」「3年間を過ごした思い出の校舎がなくなることは寂しいことです。しかし、私達は、我々の思い出よりもまだ見ぬ後輩達の笑顔を選択しました」と堂々と意見を述べたのには、感激させられました。

生徒達は、9月5日からはじまった「北辰祭」でも、この校舎改築を取り上げて、全校的にアイデアを募集

して、それを1年4組がまとめてモデル化したものが教室一杯に飾られていました。

これらの尊い意思、アイデアを取り入れて基本構想を更に充実したものにする努力を続けなければならないと決意を新たにしました。

5月2日には、岐阜県教育委員会への要望書を提出してまいりました。これには地元選出の宮島県会議長の御尽力を頂きました。

ところが、この時には、県教育委員長は不在で、私達を対応して下さったのは、教育次長などの幹部の方々でありました。私達の校舎改築に対する熱意は十分に伝わり、来年度には調査費が計上できるように前向きで検討していただけるとものと感じました。

陳情が終り、雑談になった時に、この教育次長が、わが多北高の七回生であることが判りびっくりしました。わが同窓会の人脈は、どんどん広がっていることに力強さを感じました。同窓会員の皆さんの各分野における御協力のもとに、立派な校舎改築の基本構想を作り上げていきたいと思っています。皆さんの御指導、御協力をお願いします。

多治見の今年の夏は暑い暑い夏でした。（全国に数回なりました。）

東京支部の皆様の益々の御活躍をお祈り申し上げます。

多治見市の昨今

多治見市長

西寺雅也

最近、多治見市が一冊の本を出版しました。それぞれの分野での行政の取り組みを実際の担当者が自ら執筆したものです。決して宣伝のための誇大広告的な出版物ではなく、多治見市という自治体の現状や考え方を率直に表現したものです。この種の出版物は意外とないことから一部で評価されています。東京都内のちゃんとした書店の店頭には並んでいます。興味のあるかたは是非ご一読ください。「挑戦する都市—多治見市—」（公人の友社）という本です。

多治見市にとって、昨年度は全国レベルで評価されることの多い年になりました。建て替えを行った市立多治見中学校の校舎は文部科学大臣奨励賞（最高賞）を受賞、全国の環境NPOが行った「環境首都コンテスト」では全

国8位、10万から30万規模の都市では全国第1位にラ



多治見中学校中庭

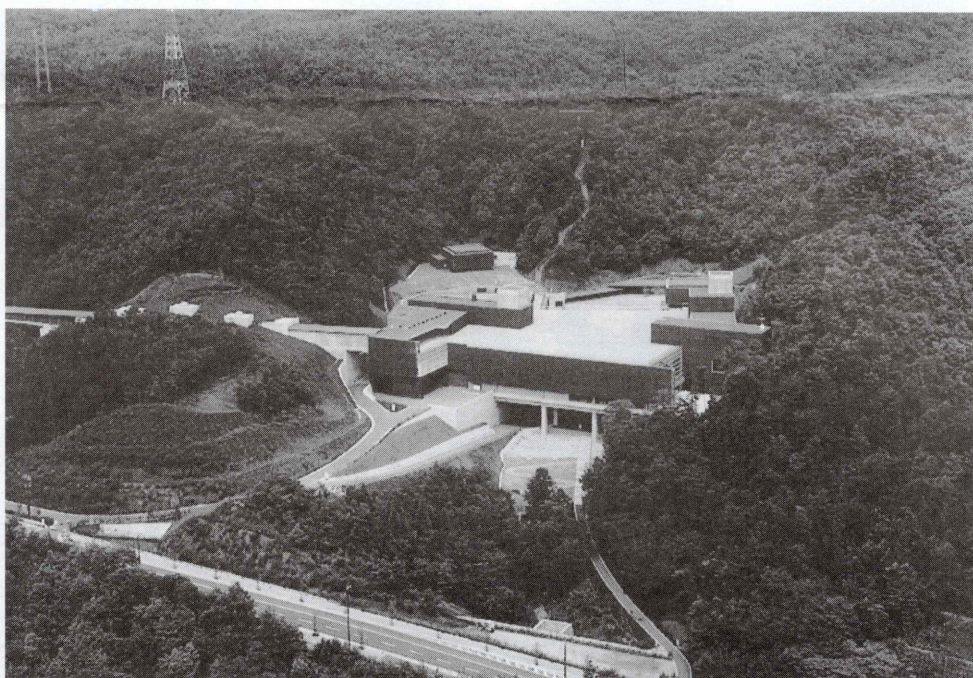
ンクされました。IT関連の施策と循環型社会システム構想の実施で毎日新聞の地方自治大賞優秀賞をもらいました。

多治見市の施策がようやく自治体の中で高い評価を受けるようになってきました。また、全国報道されて有名になった「一般廃棄物処理立税」以後、全国から講演依頼や執筆依頼が私や職員のところにも数多くくるようになりました。行革や環境問題など先進的な取り組みをしている部署の職員は大学で特別講義をする機会をあたえられるようになってきました。また、逆に全面的に大学生の「インターンシップ」を昨年から受け入れることにしています。昨年も50名以上の学生さんが市役所で研修をしていきました。是非、大学関係者の方はご利用ください。

今、私に課せられた課題は職員のレベルをどこまで上げられるかということだと思っています。優れた自治体といわれている市には、首長が誰になろうと高いレベルの行政を行っていきけるだけの力量をもった職員がいます。しかも、層としてそれがあるということです。特に地方分権の時代、自治体も横並びではありません、それぞれの自治体の創意工夫がまちを変えていく時代でもあり、格差が歴然としてくる時代でもあります。しかも、国、地方とも財政は危機的な状況にあり、少子高齢化とそれによる人口減少が自治体の破綻ということさえもたらすことが危惧され

ています。危機意識をもたない自治体の将来は危ういという認識を持つことがとても重要なことになってきました。

多治見市では地場産業の陶磁器産業が苦戦する中、なんとか多治見のまちへ人に来てもらおうと「産業観光」に力をいれています。体験や見学できる場所も徐々に整備されつつあります。是非、帰郷の際に多治見市内を散策してください。特にこの秋オープンするセラミックパークMINOという県の施設は現代陶芸美術館とメッセ機能を併せ持つ建物です。ここを会場に10月12日から11月4日まで第6回国際陶磁器フェスティバルが行われます。メイン催事の陶芸、陶磁器デザイン2つのコンペティションは世界的に認知されたコンペに成長しました。時間を見つけて多治見へどうぞ、この秋!!



セラミックパークMINO

母校での講演—35年後輩達との接触

多治見北高8期生 加納宣康

現職：亀田総合病院外科 主任外科部長 兼 内視鏡下手術センター長
マハトマ・ガンジー・メモリアル医科大学名誉客員教授

高校を卒業後早34年、今回久しぶりに母校を訪れる機会を得ました。

7月17日、母校での生徒対象の「総合的学習の講演会」の講師として呼んでいただいたのです。これは多治見北高と同窓会が協力して進めている企画の一環として招かれたものです。多治見北高の先輩達の活躍ぶりを生徒達に聴かせて、自分の将来設計を立てる上での参考にさせようという目的で行われています。

私が現在住んでいる千葉県鴨川市からは東京へ出るまでに特急で2時間かかるので、多治見市へ着くまでの旅程が大変でした。前日の深夜に東京まで行っておいて、当日の朝7:時頃に東京を出て多治見へ向かう、ということになりました。

久しぶりに訪れる母校はあの古い木造の校舎は完全に姿を消し、昭和43年頃と同じ建物はあの頃「新館」と呼ばれていた一棟だけでした。職員室前のトイレは

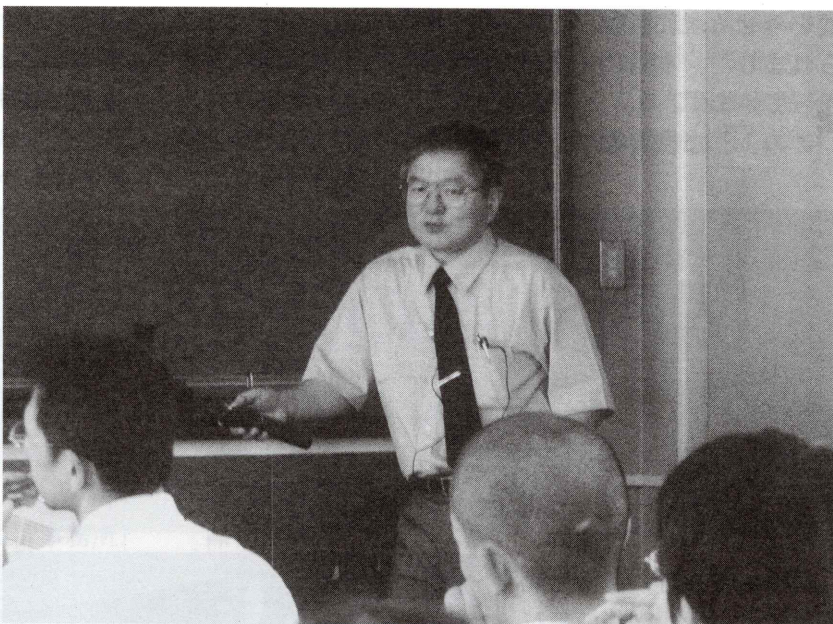
同じところがありました。あの頃「お釣りをもらわないように気をつけて排便していた」汲み取り式トイレも、りっぱな水洗便所になっており、時代の変遷を感じました。

生徒への講演のテーマは、「20世紀最大の医療革命：内視鏡下手術（小さな孔から臓器を取り出す）」を選びました。現在の胃癌治療を例に挙げて、内視鏡下手術と従来からの開腹手術との差異、両者の選択の仕方などについて説明し、現在どこまでが内視鏡下手術で治療可能かについて説明しました。その中では実際の胃癌の手術もビデオで供覧しました。

また講演の中では、手術治療そのものについての話以外に、私がどうして医師を志すようになったかを、私の既往歴を紹介しつつ話しました。幼少時より多くの病気を経験してきた私でしたが、高校時代、入学式の翌日に受けた虫垂切除術後の体の不調で悩んでいるうちに医師になろうと決心したこと、高三の時に副鼻腔炎の再手術を受けたが、その後の経過がよくなく、何年も病院通いを続けたこと、などを話しました。医師となってからは、この世界でナンバーワンになることを常に意識して生きてきたこと、そのおかげで結果としては1993年に世界で毎年7人だけ選ばれる米国外科学会のInternational Guest Scholarに日本人として初めて選出されるという栄誉を得て、これには大変感激したこと、などを話しました。

病気がちな子ども時代ではありましたが、常に「自分は将来こうなりたい」、という夢を持って生きてきました。体位に恵まれなかったこと、健康上の問題が常にあったことなどから、かつて夢見たプロ野球選手や花形陸上選手にはなれませんでした。悩みの先に医師としての道を発見しそれを歩むことができました。

生徒諸君が現在の外科治療の最前線について理解し



講演中の私

てくれただけではなく、私の「少年よ大志を抱け！」という熱いメッセージをしっかりと受け止めていてくれれば幸いです。

講演後生徒達からいくつかの感想メールを受け取り、少しは私の期待に応えてくれているのが感じられ幸せに思っています。私の勤務する亀田メディカルセンターを見学に来たい、という申込みもありましたので喜んでお受けするつもりです。これを機会に35年も後輩に当たる若者達との交流が始まったのが最大の喜びです。

この機会をお与えいただいた土肥勇賢校長先生のご熱意に感謝し、この企画がますます発展していくようにとお祈りいたします。

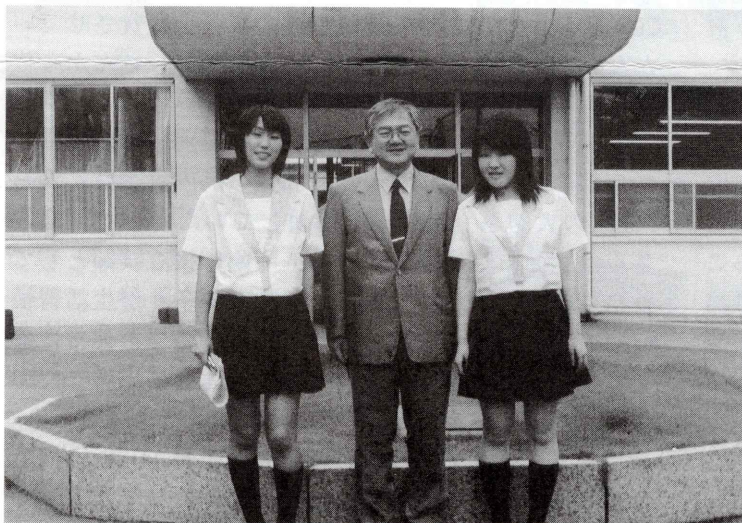
講演を聴いてくれた生徒の一人、水野良昭君から寄せられた感想文を同君の了解の元に掲載します。

「内視鏡下手術の話聞いて」

僕にとって加納先生のお話は実に興味深いものでした。自分は先生と同じ道を歩めれば…と思っているのですが、先生のお言葉、一言一言が胸に響きました。特にお話を聞いていて思ったのは先生の飽くなき向上心です。「常にトップを」というその心持ちがインターナショナル・ゲスト・スカラーをもGETした源のような気がします。

もう一つ、これは自分がとても嬉しかったことなのですが、手術のビデオが見れたことはとても感激でした。そのビデオというのが、先生も手術中に見ていた同じモニター画面の収録版という感じでしたが、何か疑似体験というか、とてもドキドキでした。

加えて、先生がお帰りになってから、先生がお書きになった「いい患者さん、困った患者さん」という本も読んでみて、これからの医療、患者さんとそのご家族とのつきあい方、そして著しい発



講演終了後可愛い女生徒達とのスナップ

展をみせる現代医療、この本で色々なことを考えさせられました。本当に先生のお話が聞けて心より嬉しく思っています。

このような機会を与えて下さったみなさんに厚い感

謝を申し上げたいと思います。そして何より、千葉からわざわざお越し下さった加納宣康先生に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

関西支部の近況と今後について

関西支部会長

吉田美喜夫（8回生）

去る6月9日、多治見北高校同窓会関西支部の第11回総会並びに懇親会が開催された。会場の「がんこ高瀬川二条苑」は角倉了以によって作られ、後に山縣有朋の別荘「第二無鄰庵」となった邸宅を利用した料亭である。庭苑には鴨川から直接水が引かれ、それが高瀬川の源流となっている。参加者は休憩時間にこの庭苑での散策を楽しんだ。

今回の総会には、学校から土肥勇賢校長、渡辺正司先生、恩師の大角敏男先生、同窓会本部から加藤昭仁さん（6回生）、東京支部から前原金一さん（2回生）が参加された。関西支部からは19名の参加があった。関西支部内の対象卒業生が300名であるから、やや少ない。東京支部の場合、1400人中100名程の参加者があると聞いているので、何とか追いつきたいという対抗心が湧いてくる。

ところで、関西支部の毎年の総会には20名前後の参加があり、この数に近年大きな変化はない。増やしたいのは山々だが、あせっても始まらない。とくに、昨今の社会・経済状況の下では、同窓会が二の次になるのもやむを得ない。しかし、このような状況だからこそ、世のしがらみと無縁な「オアシス」のような性格の人の集まりは貴重ではなからうか。日頃、厳しい駆け引きの世界に生きているのと違い、若かった頃の3年間を同じ学校で生活したという一点の共通項のみを要件にして人間関係が形成できるということは、何と価値のあることかと思う。

これまで、多くの参加者を得ようと、色々工夫してきた。そのコンセプトは「楽しく、為になる」という



関西支部のみなさん

ことである。99年には立命館大学で介護保険に関する講演を聴くとともに近隣の名刹（等持院など）を訪れ、2000年には奈良大学で解説つきの雅楽を鑑賞させていただいた。さらに、2001年には、前原金一さんから佐藤一斉についての講演を聴いた後、神戸の「ルミナリエ」を楽しんだ。今回、山縣有朋の旧別荘を会場にして京都の風情に接しつつ、8回生の島内貴美さんから「健康の大切さ」について講演していただいた。島内さんは箕面市医療保健センターで臨床検査技師として勤務されているからである。参加者の多くが生活習慣病に罹患している恐れのある年齢層なので、非常に参考になるお話が聴けた。おそらく同窓会に出席したおかげで長生きができたということになると思う。

このようにして、今回の総会も無事終了した。同窓会が「盆と正月と同窓会」というように1年に3回くらい心底骨休みできる機会の一つになるよう、今後も企画に工夫していくつもりである。

広げよう 「北高通信」の輪

18回生 坂本浩一

最初に、このような交流の機会を持てますのも、ひとえに幹事様を始め皆様のおかげであると心から感謝しております。本当に有り難うございます。

ところで、「北高通信」について、考えを思いついたのは、昨年3月です。メール配信による同窓会の情報誌を作れば、費用もかからないうえ、すぐに情報を伝えることができ、同窓生どうしの交流と親睦を深めるのに良いのではないかと思ったからです。早速、私のアイデアを、18回生の高木（畔柳）久美さん（多治見北高校数学科教諭）と中箴（右高）里美さん（多治見市役所勤務）に話してみると、それは面白いということになり、とりあえず、やってみることになりました。

最初に取り組んだのは、メールアドレスの登録です。ちょうど昨年1月に18回生の学年同窓会をやったばかりでしたので、その返信されたハガキを見ながら、100人ほどのアドレスをコツコツと打ち込みました。

さらに、いここで25回生の稲垣賢一君（稲垣鋳業勤務、多治見青年会議所所属）のご協力を得て、20人ぐらいのアドレスを各人承諾のうえ、教えていただきました。これにより、約120人の配信先リストができました。

次はいよいよ、紙面作りです。内容は、同窓生の近況報告と北高及び多治見市の情報を載せることにしました。近況報告は、私を含めて5人、北高と多治見市の情報は、前述の18回生高木さんと中箴さんからご協力をいただいて、A4サイズで2枚ほどの「北高通信」第1号が、昨年3月17日に完成しました。完成後、直ちに配信してみると、数名の方から、お礼と激励のメールをいただき、発行の喜びと充実感を感じることができました。それ以後、現時点（平成14年6月26日）で第9号まで、おかげさまで無事に発行することができました。

「北高通信」を通じて、北高出身でご活躍されている多くの方々と交流がもてるようになり、現在、北高の土肥校長先生、本部役員の方々を含めて約400人の方にお読みいただいています。これからも「北高通信」の輪を広げて同窓会の発展に役立つと同時に、何らかのかたちで地域社会にも貢献できればと考えています。今後ともいろいろとご指導及びご協力いただきますよう、心より宜しくお願い申し上げます。

（連絡先）18回生 坂本浩一

メールアドレス cft80160@nyc.odn.ne.jp

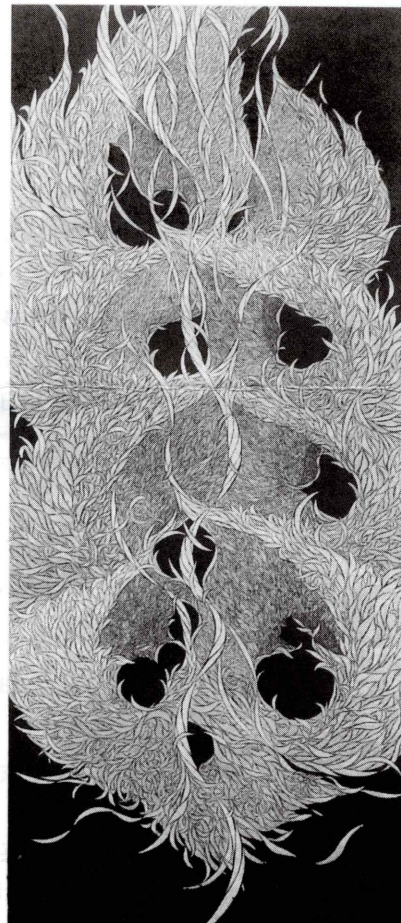
同窓生便り

阿部（井澤）良美さんが 現代工芸賞受賞

本同窓会12回生の阿部（井澤）良美さんが現代工芸賞を受賞し、本年3月26日から4月4日まで、上野の東京都美術館で開催された日本現代工芸美術展で、その後各地で展示されました。

3月31日に同窓生数名が誘い合わせて東京都美術館におもむきました。阿部さんの作品は「葩（はな）」と題された大作。繊細な線と色彩で構成され、空間的広がりを感じさせ、阿部さんの豊かな感性と丹念な仕事ぶりをうかがわせる作品でした。観賞後、本人をまじえてささやかなパーティ（飲み会）を行いました。創作についての話を聞いたり、地元の話、昔話など話題は尽きず大いに盛り上がりました。

（12回生 原田英明）



「葩」

第41回日本現代工芸美術展 現代工芸賞受賞

第12回東京支部総会・懇親会のご案内

会員の皆様には益々御清祥の事とお慶び申し上げます。いつも何かと支部運営にお力添えいただき有り難うございます。

さて、本年も総会・懇親会を下記の要領で開催いたします。時節柄御多用とは存じますが同窓の方々をお誘いあわせの上、ご出席下さい。

多治見北高同窓会東京支部総会実行委員会
(3、13、23、33回生)

記

日時：2001年11月9日（土）pm3：00～7：45

受付 pm2：30～

総会 pm3：00～3：30

議長選出 活動報告 会計報告 その他

フォーラム pm3：30～4：50

1. 「多治見市政について」

多治見市長 西寺雅也（2回生）

2. 「私と少林寺拳法」

大有建設株式会社

取締役東京支店長 紀藤力彦（3回生）

3. 「子供の健康と学校給食」

文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課

学校給食調査官 金田雅代（旧姓前田）（3回生）

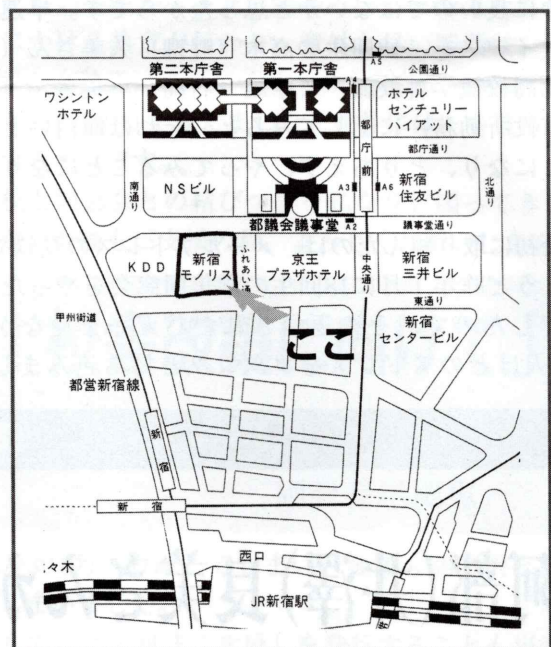
懇親会 pm5：00～7：45

会場：モノリス29

新宿区西新宿2-3-1 モノリスビル29F

(03-5381-9229)

※会場までの道筋は、案内図をご覧ください。



- ・懇親会費 一般7,000円 学生4,000円（新卒業生は、無料）・年会費 一般3,000円 学生1,000円
- ・今年も同窓会本部より若尾会長、尾関副会長、西寺多治見市長、母校から土肥校長先生、高木先生（18回生）、恩師の大角先生、松田嘉久先生（体育）などの方々をお招きする予定です。
- ・出欠のお返事は、準備の都合もありますので10月20日までお願い致します。

編集後記

今年の夏は例年になく暑かった。その記憶が薄れる間もなく秋の訪れの早いのに驚く。季節ばかりではなく現代そのものが、矢の如く飛来しては過ぎて行く。時流に流されないのはそれよりも大きいエネルギーが存在するからであろう。多忙にもかかわらず、わが同窓会関係諸氏からは、今年もまた熱のこもった頼もしいメッセージを多数ご寄稿頂くことができた。この場を借りて改めて感謝申し上げたい。なお、記事に関するご意見・ご要望等は、下記にご連絡下さい。

編集委員（連絡先）

〒338-0001 埼玉県さいたま市上落合2-11-7 2107 愛知紘治（1回生）TEL/FAX 048-855-7840

〒247-0062 神奈川県鎌倉市山ノ内67 岩田 実（7回生）TEL/FAX 0467-25-5329

〒131-0043 東京都墨田区立花6-8-1-304 原田英明（12回生）TEL 03-3616-5398 md_harada@hotmail.com

<ホームページアドレス><http://members.aol.com/takitatky/> <メールアドレス>takitatky@aol.com